

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	パキスタン都市部及び農村部におけるインタビュー調査
氏名 Name	賀川 恵理香
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	アジア・アフリカ地域研究研究科・グローバル地域研究専攻・5年
渡航国 Country	パキスタン・イスラーム共和国
渡航日程 Travel schedule	2022年 8月 28日 ～ 2022年 11月 14日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

本研究は、現代パキスタンにおけるパルダの様相を明らかにすることを目的としている。パルダとは、インド、パキスタン、バングラデシュを中心とした南アジア地域に広く存在する女性隔離の規範であり、男女が生活空間を分離したり、女性が衣類を用いて身体を覆ったりすることにより実践される。パルダはムスリム社会に限らず北インドのヒンドゥー社会にも存在するとされ、その実践の方法や意義づけは宗教、カースト、地域、経済階層などに応じて多岐にわたる。人口の96%以上がイスラーム教徒であるパキスタンにおいては、パルダはイスラームの価値と結び付けられて語られることが多い。報告者は学部から現在に至るまで、パキスタンの都市部及び農村部において約2年半の断続的なフィールドワークを実施し、現地の女性たちによってパルダがどのように解釈され、実践されているのかを調査してきた。

その上で、本渡航の目的は、以下の2つであった。1つ目の目的は、パキスタン・パンジャーブ州の農村J村及び周辺農村において、女性たちのパルダに関する語りを収集することであった(調査目的①)。報告者はこれまで1年3ヶ月ほどJ村に滞在し(2019年9月～12月、2020年1月～2020年12月)、現地の人々と関係を築くと同時にパルダに関するインタビュー調査を実施した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、調査範囲をJ村に絞った上で調査を行うことが余儀なくされた。よって、本渡航においては、調査範囲をJ村以外の周辺農村に拡大した上で、語りの収集を行うことで、より包括的なパルダ実践の様相を捉えることを目標とした。そして、2つ目の目的は、パキスタン都市部において女性の権利運動を推進する団体にインタビュー調査をすることであった(調査目的②)。ここでは、パキスタン最大の都市であるカラチと、2番目の都市とされるラーホールにおいて運動を推進している団体に焦点を当て、運動を推進する主体としての女性のパルダ解釈を明らかにすることによって、南アジア及びパキスタンにおける女性問題の中にパルダを位置付けることを目標とした。

成果 Outcome

以下においては、本渡航における成果を上述の2つの調査目的に沿って記述する。まず、調査目的①として掲げた農村調査においては、9月19日から10月7日、11月5日から11月12日までパキスタン・パンジャーブ州J村に滞在した上で、その周辺農村であるD村、M村、G村、L村を訪れ、パルダに関するインタビ

ユー調査を行った。調査言語は現地語であるパンジャービー語であり、質問用紙を用いない非構造化インタビューを実施した。

その結果、聞き取りを行った全ての村において、女性たちがパルダを実践する際に用いる衣類の形状が変化していることがわかった。具体的には、15年程前までは、首から下の身体全体を覆うコートを着た上で、顔の前にヴェールを垂らす形状の衣類(ブルカ)が用いられていたが、現在は、首から下の身体全体を覆うコートを着た上で、ヒジャーブと呼ばれるヘッド・スカーフを着用し、目鼻口または目のみを露出させる形状の衣類が用いられている。このような変化は、報告者がJ村にて行った2019年、2020年の現地調査におけるデータとも矛盾しない。ここから、J村に限らず、その周辺農村においても、パルダにおいて用いられる衣類の形状に変化が生じていることが推察される。

図 1 アバーヤの写真 2022年9月21日J村近郊の衣料販売店にて報告者撮影



さらに、2019年、2020年の調査実施時と比較して、J村においてアラブ首長国連邦やサウジ・アラビア等の国々にて出稼ぎ労働を行う男性の数が増加していることがインタビュー調査を通して明らかとなった。出稼ぎ労働を通じた湾岸諸国とのつながりが、J村における女性たちのパルダの実践方法に今後どのような影響を与えていくのかを注視する必要がある。

図 2 調査村の男性たち 2022年11月7日J村内部にて報告者撮影



次に、調査目的②として掲げた女性の権利運動を推進する団体への調査においては、ラーホール、ムルターン、カラチー、そしてイスラマバードを訪れた上で、立場の異なる団体及び政府機構に対してインタビューの申し入れを行った。

結果として、以下の7つの団体に対してインタビュー調査を行うことができた。1つ目は Shirkat Gah、2つ目は Women's Action Forum、3つ目は AGHS、4つ目は Tehrik-e-Niswan、5つ目は JI Women's Wing、6つ目は Punjab Commission on the Status of Women、7つ目は Punjab Women Protection Authority である。このうち、1つ目から4つ目の Shirkat Gah、Women's Action Forum、AGHS、Tehrik-e-Niswan は世俗的な立場をとっているのに対して、5つ目のジャマーアテ・イスラーミー(JI)というイスラーム政党の下部組織である JI Women's Wing は宗教的な立場をとっている。6つ目、7つ目の団体はパンジャープ州政府に所属する。

図 3 Punjab Commission on the Status of Women の看板 2022年9月5日ラーホールにて報告者撮影



図 4 JI Women's Wing 主催国際ヒジャーブデーイベントのポスター 2022年9月4日ラーホールにて報告者撮影



インタビューにおける使用言語はウルドゥー語及び英語であり、英語で作成した質問用紙を用いた半構造化インタビューを実施した。インタビュー中、許可をとったうえでビデオ撮影または録音も行っている。聞き取りにおいては、団体の沿革や団体としてのパルダ解釈を尋ねることに加えて、インタビュー対象者が個人としてパルダに関してどのように考えを抱いているのかにも言及した。現在はデータの整理及び分析を進めている。

図 5 Punjab Women Protection Authority における Muniza Manzoor Butt 氏へのインタビューの様子
2022 年 9 月 6 日 ラーホールにて 報告者知人撮影



今後の展望 Prospects for the future

今後の展望としては、以下の 2 点が挙げられる。1 点目は、J 村における湾岸諸国への出稼ぎ労働者増加に伴うパルダ実践の変化を明らかにすることである。これまでの先行研究において、社会経済状況とパルダ実践の相関関係が指摘されており[例えば Feldman, Shelley and McCarthy, Florence, E, 1983, “Purdah and Changing Patterns of Social Control among Rural Women in Bangladesh,” *Journal of Marriage and Family*, 45-4, pp. 949-959.], J 村における出稼ぎ労働者が増加し、社会経済状況が変化することによって、パルダの実践方法にも変化が生じることは十分に予測できる。よって、今後も J 村における調査を続けていくことによって、通時的な変化を明らかにしたい。

2 点目は、女性の権利運動を推進する団体へのさらなるインタビュー調査を行うことである。今回の調査を通して、以上に挙げた 7 つの団体以外にも、Al-Huda(イスラーム団体)や Aurat March(女性の権利運動推進団体)などの団体のメンバーともつながることができた。今後は、本調査において培ったコネクションを活かしたうえで、zoom や whatsapp 等のビデオ通話アプリを用いたインタビュー調査を進めていきたい。